

令和7年度 磐田市立福田中学校 学校評価書

◎昨年度値も目標値も達成 ○昨年度より上昇 △昨年度より下降

A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校運営協議会委員から
「わかった」を体験し続ける生徒	<p>①学習に対する生徒の意欲が高まるようなクエスチョン型の学習課題とすることで、主体的な学びの機会となるようにする。</p> <p>②学んだ知識や技能を対話によって関連付けることを通して、課題解決のための深い学びができる授業展開を研究し実践する。</p> <p>③家庭学習の望ましい取り組み方を指導し、家庭との連携に努め、習慣化と確かな知識・技能の定着のための支援を行う。</p>	<p>□授業の内容がよく分かる。 R6:82%・目標値80% →87% (◎)</p> <p>□他の生徒や教師と関わり合いを持ち、課題を解決している。 R6:92%・目標値85% →96% (◎)</p> <p>□課題を自分事として捉え、課題解決に向けてじっくり取り組むことができる。 R6:89%・目標値85% →92% (◎)</p>	A	<p>○生徒にとって必要感のある学習課題となるように工夫したりICT機器を積極的に活用したりしたことにより、授業内容に興味を持ち、前向きな姿勢で学習に取り組むようになってきた。また、調べ学習や教え合い学習において、主体的な学習態度が見られる。</p> <p>○知識や技能の習得のため、生徒同士の対話的活動を積極的に取り入れたことで、深い学びができる授業が増えてきた。</p> <p>※教科や単元によって、授業態度や授業意欲に差が見られるときがあった。魅力ある学習課題や参加したくなる学習活動の工夫をする。</p> <p>※学んだ知識や技能を用いて考えを表現することに苦手意識がある生徒が多い。探究的な学習の成果を発表し、交流する場面を設ける。</p> <p>※授業内で学んだことや理解できたことが定着しきれていない生徒がいる。家庭学習のあり方や計画の立て方について、事前の指導や方法を工夫する。</p>	<p>(1) ウェルビーイングの実現 校長が示す「学校を子供に合わせる」という「子供を中心にする」という来年度の学校経営方針に賛同。</p> <p>(2) 学習環境の改善 生徒が地域の課題を踏まえたり、地域での経験を学びに活かしたりできるような教育活動全体への展開を望む。</p> <p>(3) 授業力の向上 授業改善に向けた教職員の研修の深化に期待している。</p>
自分や友達を大切に協力する生徒	<p>①「生徒の計画と教師の支援」→「生徒の実践」→「生徒・教師の振り返り」のサイクルを継続し、様々な場面で、生徒の取組の過程を認め、褒めたり改善させたりする指導を行う。</p> <p>②生徒会・委員会活動、部活動、学校行事等を通して、生徒の話し合い・練り合いの場を設定し、生徒が活動について深く考え、主体的に取り組むことで、活動後の達成感を高める。</p> <p>③2大行事の企画、運営が生徒の力でできるように、極力それぞれの実行委員を動かすことで、生徒の達成感につなげる。</p>	<p>□生徒会や学級活動、学校行事の目的を理解し、掲げた目標に向かって仲間と協力しながら取り組むことができる。 R6:93%・目標値90% →94% (◎)</p> <p>□自分や友達を認め、互いに尊重し合うことができる。 R6:97%・目標値95% →98% (◎)</p>	A	<p>○生徒が主体となって学級活動を運営できるよう、学級担任や学年職員が支えることを意識して取り組んだ。</p> <p>○学校行事や生徒会、部活動においても、生徒同士による話し合いの場を設定し、よりよい活動について考えたり振り返ったりすることができたため、生徒は大きな達成感や充実感を得られた。</p> <p>○体育大会やかしわ祭は、生徒の意見を多く取り入れ、生徒自身が行事を動かすことで、達成感や充実感を感じる生徒が多くいた。また、校則見直しについても、中央委員や生徒会役員が中心となり、意見を醸成して新しい校則を作った。</p> <p>※人間関係が成熟しきれていないため、生徒間のいざこざやトラブルが見られたが、早期発見・早期解決を目指して生徒指導主事を中心に取り組んだ。定期的な生徒相談、日記やアプリを活用した生徒とのコミュニケーションを工夫する。海外にルーツを持ち家庭が一定数いるため、家庭連絡の際には市通訳と連携し、家庭の理解が得られるよう丁寧な対応を継続する。</p>	<p>(1) 制度運用への疑問 「スポカル」はどのような進捗状況か、磐周地区全体としての足並みのズレ、大会運営の継続性など、不明瞭な点を解消していく必要がある。</p> <p>(2) 教職員の働き方 兼職兼業や報酬面での配慮を含め、持続可能な体制を構築すべき。</p> <p>(3) 教育の本質 部活動のあり方が変わる今こそ、どうやって子供の良さを引き出すかが問われている。子供たちが自ら学校行事や校則改善など、主体的に挑戦する「仕掛け」を教職員に期待したい。</p>

<p>心 身 を 鍛 え て 行 動 す る 生 徒</p>	<p>①掲示物等で目標を見える化し、PDCAサイクルを確実にを行うことで、継続して挑戦し、努力する習慣を身に付ける。</p> <p>②「はまぼうチャレンジタイム」を計画的に実施し、生徒の自己肯定感やレジリエンスを高めるための指導・支援を行う。</p> <p>③生徒の様子を観察し、小さな変化を見逃さないようにするとともに、教育相談やアンケート等を通して、生徒の悩みや相談に寄り添える機会を確保していく。</p>	<p><input type="checkbox"/>目標をもち、達成に向けて努力し続けたり、あきらめずに挑戦し続けたりしている。 R6:93%・目標値85% →91%(△)</p> <p><input type="checkbox"/>自分のよさを生かし、一歩前にチャレンジしようとする気持ちがもてた。 R6:89%・目標値85% →90%(○)</p>	<p>B</p> <p>○学校生活における目標を設定して教室等に掲示したりキャリアパスポートに記入したりして、目標を意識して学校生活を送るようにした。</p> <p>○教育相談において生徒個々の理解を深め、日々の指導に生かすことができている。Web相談窓口も継続して開設している。</p> <p>○コミュニケーショントレーニングを計画的に実施し、「相手に伝わる話し方」や「うなずきながら聴く」等の生徒の表れを見付け、肯定感が高まる手立てにつなげることができた。</p> <p>※失敗や挫折を感じたときに立ち直ることができる力(レジリエンス)が弱い生徒がいる。教員対象の研修会や学期ごとのレジリエンス曲線を実施しているため、来年度は全校でレジリエンス講座や夢をもてる講座、人間関係づくりプログラムを複数回にわたって実施する。</p>	<p>(1) 不登校へのアプローチ 前年との比較を含め、原因を一つひとつ掘り下げるのが不可欠だ。教師との関係や学習面、身体の不調など、背景にあるものを精査しなければならない。</p> <p>(2) 情報モラル教育 SNSやスマートフォンのトラブルは深刻な課題だ。学校として明確な指導の方向性を示すべきである。</p> <p>(3) 共生社会の視点 外国籍の子供たちへの支援は極めて重要だ。また、地域での金銭貸借を大人が諭すような、地域全体で子供を育てる姿勢を維持したい。</p>
<p>「地 域 福 田 社 会 に 誇 れ る 中 学 校 」 を 創 ら う</p>	<p>①多様な視点で生徒のよさを見つけ、認め、PBS(ポジティブ行動支援)を充実させる。</p> <p>②地域の活動に関するユニット活動(ボランティア)を積極的に募集し、自主的な活動を促すことで、地域の一員としての自覚を育て交流する機会を作っていく。</p>	<p><input type="checkbox"/>今住んでいる地域や磐田市の歴史・自然について関心がある。 R6:64%・目標値75% →69%(○)</p> <p><input type="checkbox"/>福田中学校が好きだ。 R6:90%・目標値90% →93%(◎)</p>	<p>B</p> <p>○学期や行事の後には、生徒が福田中(福田中生)のよさを言葉にして、それを教員が価値づけして共有した。</p> <p>○生徒会が企画した地域での清掃活動に多くの生徒が参加し、積極的な姿勢が多く見られた。また、校内や地域の行事等のボランティアをユニット活動と名付け、12のユニットを募集したところ、延べ人数で250名以上の生徒が参加し、地域からも高く評価していただいた。</p> <p>※交通マナーや地域の方々へのあいさつの面では、まだまだ不十分である。交通安全やあいさつ運動などの具体的な指導や、全校道徳やローテーション道徳等による道徳心の育成、保護者や地域との一層の連携を実践する。</p>	<p>(1) 新設道路への対応 3月22日の150号バイパス開通により、周辺道路の交通量増加は確実。生徒への事前指導が必要。</p> <p>(2) 自転車マナーの徹底 ヘルメット未着用の生徒が声掛けによって着用するようになった例もある。地域の大人が見守り、声を掛けることには大きな価値がある。</p> <p>(3) 地域の見守り体制の再考 PTAのあいさつ運動が形骸化している現状がある。参加率を高めるために割当制にするなど、実効性のある仕組みを検討してはどうか。</p>

学校関係者評価を受けてのまとめ

1. 子供が主役となる学びと環境の実現: 自ら学ぶ探究的・個別最適な学びへ転換。子供の意見を中心に教育活動を改革し、主体性を育む環境を整える。
2. ウェルビーイングを軸とした学校経営: 「幸福学」の4因子を教育活動の柱に据え、「四方良し」の学校を目指す。1年間を4因子に合わせたシーズン制とする。
3. 地域と共創する「WIN-WIN」の教育活動: CSの機能を活かし、地域の専門家を積極的に授業へ招聘。「ユニット活動」を通じて地域貢献を行う。
4. 柔軟な教育課程によるゆとりの創出: 授業日数を203日確保し、5時間授業の日を増やすことで、生徒と教職員の心身のゆとりを確保する。定期テストの精選や部活動地域展開に伴い、休養日の再編、教職員の業務見直しにより、質の高い教育と働き方改革を両立する。